



TOP インタビュー

安定した中央銀行サービスを提供する

日本銀行札幌支店
岡本 宜樹 支店長

聞き手

帝国データバンク 札幌支店長 大森 良二

今年5月に就任した日本銀行の岡本宜樹札幌支店長は、道内経済にはいま、ラピダスの千歳進出をはじめ、再生可能エネルギーの集積といった“需要の追い風”が吹いているとみる。「北海道には人を呼び込む魅力がある」と語る岡本支店長に、これまでの歩みや道内経済の現状、今後果たしていく役割などを伺った。

—今年5月、日本銀行札幌支店長に就任されました。これまで経験されてきた仕事のなかで、印象深いものはありますか

私が日本銀行に入行したのは1990年です。90年代は金融機関の不良債権問題が大変な課題となっていた時期でした。若手であった私も末端としてこの問題への対応に取り組んでいましたが、個人的にやりがいを感じたことの一つとして、当時はあまり注目されていなかった税効果会計に着目し、その活用につながる分析や提言をおこなったことがあります。

また、海外当局との対話についても、例えば邦銀に対して不利益な要求をしてきた場合でも、こちらのロジックで説明し、納得してもらい、共通の理解に達するというのを何度か経験しました。こうしたことも、少しはお役に立てたのかなと思っています。

—道内経済の現状をどのように捉えられていますか

実は、私自身小学生時代に1年ほど札幌に住んでいたことがあります。勤務するのは今回が初めてですが、道内経済にはいま、“追い風”が吹い

ていると感じています。

私どもは道内の景気について、緩やかに持ち直していると判断しています。やはり新型コロナウイルスの影響は薄らいでおり、そのこと自体がプラスの効果をもたらすとした上で、北海道はこれからさらにインバウンドが増えていく余地があると思います。個人消費もペントアップ需要に支えられて緩やかな増加傾向を示しています。

また、札幌を中心に再開発も進んでいます。当面は建設需要が高いレベルで推移するのではないのでしょうか。さらに、ラピダスの次世代半導体工場が千歳市に建設されます。ラピダスが軌道に乗れば、関連する産業・事業がさらに拡大していきます。それは製造業には限りません。北海道にとっては極めて強力な成長エンジンになっていくと考えています。

まずはラピダスがしっかりとテイクオフできるように期待したいですし、そうなったときにはぜひ、北海道のみなさまはしっかりとしたビジネスマインドを持って、果実を得られるような取り組みを進めていただくことが重要だと思います。

北海道から東京方面を中心に人材が流出しているという現状はあります。ただ、これはあくまで私見ではありますが、そうした人たちが北海道に魅力ある職場があると感じられれば、“北海道から東京”という流れは逆転する可能性すらあると思っています。私は、北海道には人を呼ぶ魅力があると感じています。

札幌のような大都市もあるわけで、北海道に魅力ある仕事があれば、わざわざ東京まで出ていかなくてもいいし、あるいは東京から人が呼べ

るくらいの地域なのではないでしょうか。そういう意味でも、ラピダスの千歳市進出は大きな一つのポイントになってくると考えています。

また、再生可能エネルギーに関わるさまざまな動きも、北海道にとっては将来性に富んだトピックだと思えます。これも実は期限が区切られているような話で、この先20年くらいの間で脱炭素社会の実現は相当具体化しなければなりません。国内であれば北海道はまさに再生可能エネルギーのポテンシャルが随一でありますし、金融面も含めたさまざまな支援も、事業者に対して実施されています。事業化に向けた道のりは決して平坦ではありませんが、脱炭素に向けた再エネの推進も追い風の一つだと思っています。

もう一つ、北海道に来てから強く認識したのは、ある意味広大な土地であるがゆえに、地理的なハンディを負っている地域でも、合理的に経済を成り立たせていくためにどうすればいいのかということ、みなさまがきわめて真剣に考えられているということです。

物流面や行政サービス、金融サービス、スーパーマーケットなどの流通サービスなどを広域的に維持・向上させるビジネスモデルを構築する取り組みは、北海道が先端を走られていると感じています。

一道内の金融機関に対して期待することは

先ほども申しましたが、北海道ではさまざまな事業者や機関が非常に広い地域を支えられています。金融機関も継続的に社会から求められるような形でサービスを提供していくうえで、合理的にネットワークを構築していくための工夫をしていただく必要があると思っています。

環境は常に変化していますが、北海道についてはラピダスをはじめ、再エネなど、大きな転換期になりそうな経済トピックが本当に多くあります。金融機関にはそのような環境変化をしっかりと飲み込んだうえで、変化し続けるニーズを的確に捉えられた金融サービスの提供を行っていただければと期待しています。

金融機関のみなさまが北海道内の地域を支えているということは、私自身ひしひしと感じています。今後も引き続きアンテナを高くしていただきたいし、私どもとしても金融機関との対話を通じて、そこはしっかりとお願いしていきたいと考えています。

—今後、御行が北海道において果たしていく役割は中央銀行として国全体、地域全体に安定したイ



ンフラやサービスを提供していく基本的な機能をしっかり発揮していくというのが大前提です。例えば現金の供給や、あるいは民間金融機関を通じてお金を振り替えて決済していく仕組み、国のお金を円滑に支払ったり、収納したりするといった機能があります。皆様がそれらを何も意識せず、空気のように享受していただけるようにするのが、私どもの役割だと考えています。

そのうえで、北海道の経済状況について集約させていただく立場にありますので、できるだけ皆様から求められている情報についてタイムリーに発信し、経済の活性化に役立ちたいと思っています。この転換期に必要な情報を必要なタイミングでしっかりと提供できるよう、今後も努めていきたいと考えています。

—本日はありがとうございました

岡本宜樹氏 プロフィール

1967年（昭和42年）、東京都生まれ
 1990年3月 東京大学法学部卒業
 1990年4月 日本銀行入行
 2003年3月 信用機構室調査役
 2004年7月 政策委員会室企画役
 2006年8月 業務局企画役
 2010年7月 政策委員会室経理課長
 2011年7月 金融庁へ出向
 2013年6月 政策委員会室国会渉外課長
 2015年6月 松本支店長
 2017年6月 発券局参事役
 2018年4月 仙台支店長
 2021年1月 金融機構局上席考査役
 2023年5月 札幌支店長